



板荷中だより

<http://kanuma-school.ed.jp/j-itaga/>

<< 教育目標 >>

- ・ 自ら考え学習する生徒
- ・ 思いやりを態度で示せる生徒
- ・ 何事も全力で頑張る生徒

発行 板荷中学校
住所 板荷2675
電話 64-8151

お盆明けに始まった2学期 学校長

お盆を過ぎるといよいよ2学期に向けての準備をしていた夏休みから、お盆が明けると同時に終了する夏休みとなりました。新型コロナウイルスの情報が毎日大量に流れる中、今年の8月15日は75回目の終戦の日でした。全国各地で戦没者の慰霊が行われていました。コロナ対策のため、参加する人数も制限しての慰霊だったようです。今年は、戦後75年を迎え、先の大戦を経験した人やその遺族の高齢化が進み、戦争の痛ましさと戦争の真実などを後世に伝えるという課題が年々重くなっているという話を聞くことが多くなっていたように思います。学校においても、この時期に道徳科の授業で、国際理解や国際貢献という内容項目で戦争や紛争に関する授業を行っています。以下は各学年の主な内容になります。

○1年生：真珠湾攻撃を指揮した山本五十六連合艦隊司令長官が生まれた長岡市と攻撃を受けた真珠湾のある州ホノルル市は姉妹都市となっている。その交流として長岡市が行っている「中学生海外体験ホノルル訪問事業」に参加した女子中学生の現地での体験が題材となっている。その中で現地ガイドの「悲劇はあったけれど、過去は変えられない。過去から学びながら、未来を見つめて、日本ともっとよい関係を作っていきたい。」という言葉から、女子生徒が「平和のために私にできることはなんだろう」と考えるようになる。という内容です。

○2年生：1985年3月、イランイラク戦争のさなか、トルコ政府が自国の救難機を派遣し、首都テヘランから脱出できずにいたイラン在留の日本人215名を無事イランから脱出させてくれた。この背景には、1890年9月のエルトゥール号遭難事件がある。日本人が遭難者の救助及び亡くなった人々の埋葬を行い、明治政府も軍艦を出して生還した人々をトルコまで送り届けたことへの恩返しがあった。という内容です。

○3年生：2014年に史上最年少の17歳でノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマララ＝ユスフザイさんの武装勢力に襲撃された体験やノーベル賞授賞式での彼女のスピーチの全文から、世界の子ども達や女性が自分たちの権利のために立ち上がり始めた。という内容です。

2011年に東日本大震災が起きた後、「人の記憶は5年で薄れ、10年でほぼ消えてしまう。同じ悲劇を繰り返さないためにも、後世にどう伝えていくのかが課題である。」ということを目にしました。戦争体験者が少なくなる中、戦争や紛争のない平和な世界や人権が保障された世界の実現のためにも、道徳の授業のように戦争や紛争・人権の侵害があったという事実を様々な形で後世に伝えていくことが新しい形での戦争を語り継ぐことになっていくように思います。

7月22日 避難訓練

1学期の終わりに4月に予定していた火災の避難訓練を実施しました。家庭科室からの出火の予定でしたが、あいにくの天候不順により、出火場所を職員室の湯沸かし室に、また避難先を体育館に変更し実施しました。

「おかしもち」のルールを守り整然と短時間で実施できました。

[生徒の反省]

- 避難の行動の仕方を改めて確認できた。身を低くして、口をハンカチやタオルで塞ぐことを実践したい。
- 生活の中で、もしもの時に安全に避難できるようにしたい。
- 本当の火事の時に煙は上にいくので身を低くする必要があると思った。
- マスクがあるので口は塞ぐことができた。お・か・し・も・ちはもちろんですが、身を低くするなど細かなところも意識したい。
- 火事の起こった場所を把握して避難経路を考えることが大切だと思いました。非常階段も使用することがわかりました。
- ここ数年大きな災害が多いので、いつ何がおこるのかもしれない、という緊張感をもち家族とも話し合いたい。



おさない
か け ない
し ゃ べ ら ない
も ど ら ない
ち か よ ら ない

1 学期終業式(7/31)・2 学期始業式(8/17)

7月31日(金)に1学期終業式を8月17日(月)に2学期始業式を行いました。生徒の意見発表からは、「長い休業期間中の自分の生活の振り返り」、「休業中の学習の遅れの心配」、「学校再開後の学習や生活の振り返り」、「夏休みや2学期の目標」、「2学期の授業や家庭での学習」、「やまなみ祭に向けての目標や決意」、「受験勉強について」、「部活動のこと」などの発表がありました。また、熱中症対策のため、放送による式を行いました。校歌も曲を流し、耳で聴きながら心で歌うようにしています。

2学期もコロナの影響が避けられないが続くと思います。生徒の発表の中にもありましたが「日々の生活を大切にしていく」ことが「コロナに負けない」ことにもつながると思います。制約がある中でも充実した学習や生活ができるよう継続的に指導・支援を行っていきます。

コラム 情報モラル②

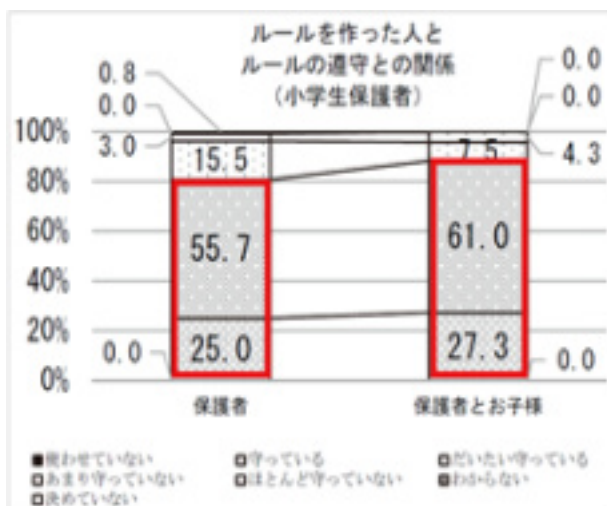
今回はルールづくりについてです。情報機器はツール(道具)の一つです。正しい使い方することで、生活をより豊かにしてくれるものです。そのためには一定のルールの中で使用することが大切です。

スマートフォン等の使用ルールは、誰が作ると効果的？

つついちゃめられないスマートフォンやゲーム機の使用。ご家庭では、使用についてのルールが決められていますか？

令和元年度に行った栃木県総合教育センターによる小学生の保護者を対象としたアンケートで、「情報機器(スマートフォン・タブレット、パソコン、ゲーム機)のルールは誰が作りましたか」と、「お子様はルールを守っていますか」の二つの調査項目のクロス集計を行った結果、保護者だけでルールを作るより、保護者がお子さんと話し合っ
てルールを作る方が、その後、ルールを守る割合が高いことが分かりました。

情報機器の使用ルールを作る最も効果的な機会は、購入した時です。その時に、ぜひ、お子さんと一緒に使用時間や使い方のルールを話し合ってみてください。子どもが守れる具体的なルールを作り、守れなかったらどうするかも話し合っておくことがポイントです。もちろん、購入時だけでなく、折に触れ使用状況を確認し、お子さんと一緒にルールを見直していくことも大切です。



<ルールを決める際に参考となる資料>

・栃木県教育委員会 「情報モラル指導資料『ネットトラブル事例とその予防』」

【事例8】ネット依存(ルールの決め方について)

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m09/jidouseitosidouhuisinsitu/h28nettotoraburujirei/tosonoyobou.html/>



<ルールの例> 県警本部等作成の「ネットの危険から子供を守ろう!」より(一部抜粋)

- 利用は□時～□時の間にする。
- 利用場所は○○○で使う。
- IDやパスワードは親が管理する。
- 危険なサイトやアプリについて親子で話し合う。
- 写真は絶対に送らない。
- ネット上で個人が特定できる情報は公開しない。
- ネットで知り合った人とは絶対に合わない。
- ルールを守れないときは□□□□する。



3月(木)～4日(金) 修学旅行
※東北方面で1泊2日の予定
8日(火)～18日(金) 県立高説明会
11日(金) 小児生活習慣病検診
※2年生で実施
15日(火) 腎臓検診(一次)

17日(木) 生徒会役員選挙立会演説会
17日(木) 生徒会役員選挙投票日
25日(金) 実力テスト(3年生)
25日(金)～26日(土) 地区新人大会(中止)
※10月16日(金)～18日(日)の県新人大会も中止となっています。